

「する」スポーツ支出額減らず

県内では来月から、国体の開催が予定されている。大規模スポーツイベントの開催は、選手、観客の来場などに伴う大きな経済効果を開催地にもたらすが、コロナ禍による規模の縮小などから、その効果は限定的にならざるを得ない。

このように、コロナ禍においてスポーツを大勢で「見る」ことは難しいが、スポーツを「する」人、お金をかける人は増えているか、少なくともあまり減っていないようだ。三重県民の「成人の週一回以上の運動・スポーツ実施率」は二〇二〇年度が50%で、一七年度の43%より上昇した。

総務省家計調査より二〇年の一世帯当たり支出額を一七～一九年の三カ年平均と比べると、津市ではスポーツ観覧料が半減したがスポーツクラブ使用料は四割増で、スポーツ月謝は微減にとどまった。運動用具類も減少したが、二〇年で全国九位と「する」運動にはお金をかけているようだ。

株式市場を見ると、東京五輪開催やコロナ禍でのアウトドア志向などを背景に、スポーツ関連株が近年にない高値をつけている。こうした動きが、ビジネスの新たなヒントとなることを期待したい。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子)

県民の「成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率」



1世帯当たりスポーツ関連支出額の増減率

(津市、2人以上の世帯)



※2020年、17～19年3カ年平均比

※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2021年8月5日